

支倉常長フェロー報告書



提出日 2010年09月07日

申請者	氏名	高木 祐介
	所属・職	循環器病態学分野・大学院3年生
出張期間	2010年08月29日～09月03日	
渡航先	スウェーデン・ストックホルム	
渡航目的	ヨーロッパ心臓病学会参加	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Importance of dual induction tests for coronary vasospasm and ventricular fibrillation in the decision-making for the management of patients with out-of-hospital cardiac arrest	

得られた成果など

支倉フェローシップのご支援を頂き、8月28日～9月1日の期間にストックホルムにて開催されたヨーロッパ心臓病学会（ESC Congress 2010）に参加した。8月31日、ポスターセッションにて、演題「**Importance of dual induction tests for coronary vasospasm and ventricular fibrillation in the decision-making for the management of patients with out-of-hospital cardiac arrest**」の発表を行った。

院外心停止は全世界的に重要な疾患であり、蘇生例の長期予後改善のためには、心停止の病態解明と、個々の原因に応じた治療が不可欠である。院外心停止の成因の多くは急性冠症候群をはじめとした器質的心疾患であるが、一部に明らかな異常を同定できない例が存在する。本演題は、これら器質的心疾患を認めない院外心停止蘇生例において、冠動脈攣縮と心室細動の両者が心停止発症の成因として重要であることを初めて示し、その長期予後、並びに埋め込み型除細動器の有用性を検討したものである。今回発表した我々の知見は、院外心停止の病態の理解、及び蘇生例の長期予後改善に寄与すると考える。

循環器領域の大規模な国際学会として、過去2年間アメリカ心臓協会（AHA）の年次学術集会に参加したが、本学会はそれと比較しても活気に溢れ、超満員の会場では多彩な演題に関して盛んな意見交換が行われていた。参加者の国籍が多岐にわたることも特色の一つであった。多くの研究成果に触れることができ、非常に有意義な学会参加であった。

このような素晴らしい機会を頂いたことに深謝申し上げます。



Main entrance



ポスター会場にて

支倉常長フェロー報告書

提出日 2010年 9月 6日



申請者	氏名	建部 俊介
	所属・職	循環器病態学分野・大学院2年
出張期間	2010年 8月 27日 ~ 9月 2日	
渡航先	スウェーデン・ストックホルム	
渡航目的	学会発表	
発表演題名あるいは 共同研究課題名	Optical Coherence Tomography as a Novel Differential Diagnostic Tool for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension from Pulmonary Arterial Hypertension	
得られた成果など	<p>ストックホルムで開催されたヨーロッパ心臓病学会に参加し、演題を発表した。本学会は世界最大規模の心臓病学会であり、多数の参加者により盛況であった。</p> <p>私が発表した演題は、元来、網膜・冠動脈の観察に用いられている OCT (光干渉断層撮影法) を、慢性血栓塞栓性肺高血圧症及び肺動脈性肺高血圧症の鑑別診断に応用した新たな肺動脈画像診断法に関するものである。</p> <p>OCT は空間分解能が高く、従来の肺動脈造影・造影 CT では不可能であった 1 mm前後の肺細動脈壁の性状・血管内血栓の詳細な観察を可能とするもので、両疾患の鑑別に有用であることを世界で初めて明らかにした報告である。鑑別診断は治療方針の決定に必須であることから注目度は高く、実際の手技や安全性について多くの質問を受けた。また病理組織との対比、治療介入効果、予後予測への応用などについて有意義な討論を行った。</p> <p>また、各国の最先端の研究発表に触れることができ、多くの知見を得た。特に、専門である肺高血圧症や成人先天性心疾患においては、日本の大規模登録制度の必要性を感じた。一方、現在私が並行して行っている研究テーマである後毛細管性肺高血圧症に関する研究発表もあり、データ収集や解析法が大変参考となったが、同時に今後の研究の方向性について考える良い機会となった。</p> <p>海外の学会に参加する機会をいただいたことに、心から感謝します。</p>	
		 